自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修の中で事業所の理念に触れ、理念に基づいた目標を掲げている。	法人の理念である「誠意を尽くす」を基本にした、事業所の理念を各ユニットで掲げている。常に職員の目に触れる場所に掲示すると共に職員研修での振り返りの機会も作り、日頃の支援の指針となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には地域住民の方から多数参加いただいている。また、町内の会合や行事にはできるだけ参加する様に心がけている。	地域の方が多数参加する運営推進会議後には、地域の茶の間的な場を設けて利用者との触れ合いの機会を作ったり、町内会の行事、祭りにも積極的に参加している。高齢者が多い地域の中で頼られる事業所として、地域との関わりを大切に考えている事業所である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会、民生委員との連携を図り、相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に定期的に開催しているが、こちらからの報告や取り組みについて意見交換をし、様々なアドバイスや意見をいただいている。会議の内容については職員にも伝達しサービスの向上、改善に努めている。	定期的に開催される運営推進会議には、地域住民、地域包括支援センター職員、町内会長、地域の薬局薬剤師等、毎回多彩な参加者がある。各立場から運営に関する助言、意見が出され協議検討されている。検討された内容は会議後には回覧し、職員にも伝達され運営に活かしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を運営する上で疑問点等を伝え、助言をいただく等、連携を取っている。	市職員とは定期的に連絡を取り合うことはないが、制度的な確認等必要に応じて連絡し助言をもらっている。地域包括支援センター職員とは運営推進会議出席時の他、ケースについての連絡事項や利用者の今後についての相談ごとなど、常に連絡を取り合い連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、ユニット出入り口、玄関の施錠は原則的には行わず閉塞感を与えない様に努めている。但し階段につながる出入り口については、転落の危険が大きいため普段は施錠しエレベーターの使用をお願いしている。	マニュアルは整備され、いつでも確認できる場所に設置されていると共に、身体拘束に当たる行為をわかりやすく文書化し、日頃の支援の内容の確認、振り返りができるようにしている。日中、施錠はしない事を基本としているが、利用者の安全を第一に考え必要に応じ施錠の場面もある。その場合も職員間で必ず確認し合っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員とも研修等を通して学び対応防止に努めている。	H27年度に外部講師による虐待に関する研修会開催の実績があり今年度も開催を予定している。研修を通して、どのような場合に虐待に繋がっていくのか、見過ごさない視点などを学ぶ機会を設けている。管理者は職員のストレス対策に重点を置き、日頃の様子を気にかけ、声をかけるように努めている。「踏み外さないように」の言葉が印象的であった。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員とも研修等を通して学び、利用者様、ご家族様の支援ができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を行い、ご質問等にはお答えし理解・納得をいただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し意見を伝える事が出来るようにしている。運営推進会議に家族より参加いただき意見・要望等を直接聞く機会を設けている。	利用者毎に担当者を決め、利用者、家族が意見要望を伝えやすい関係性を大切にしている。意見箱の設置や面会時には出来るだけ管理者も対応するよう心掛けて意見を聞く機会としている。頂いた意見、要望は出来るだけ迅速に対応し運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼、会議、ミーティング等を通し職員からの意見等を聴き吸い上げるように努力している。また管理者は会議を通して代表者に対して職員の意見等を伝える機会がある。	管理者は毎朝のミーティング時に直接職員の意見を聞く機会を設けている。その他、月1回の職員会議は事前にリーダーが職員の意見をまとめ、管理者を交えて検討している。検討内容は回覧し支援にも活かしている。法人全体の会議にも管理者は現場の声を代表して伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員に資格取得を奨励し資格取得者には祝い金や資格手当を支給し、励みとなるような制度を設けている。また夏季休暇冬季休暇をそれぞれ3日ずつ支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員教育の為研修制度を設け力量に添った研修を受ける事ができるようにカリキュラムを組み立てている。外部研修も随時予定している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は様々な研修を通し同業者と交流する機会がある。互いに見学や意見交換を行いネットワークを広げ交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問等をし家族の意見や本人の気持ちを伺い、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と話し合い、今までの生活状況や不安に思っている事等を聞き取りながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の思いが異なることもあるが、間に入って調整しながら方向性を見つける努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者の生活を支えるという事を重視し、本人のできる事、介助すればできる事を見極め、生活全般に関わる事に対しその方に応じた支援を行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子を居室担当者よりお便りという形で月に1回家族に報告している。また居室担当者を中心に家族と連絡をとり共に支えていく関係づくりをしている。	毎月の施設便りと共に、担当職員が個人便りを作成し近況を家族に伝え喜ばれている。面会に来られる家族は多く、定期的に外食に出かけたり、外泊支援もされるなど家族との関わりは多くなっている。また、担当職員が中心となり、定期的に連絡を取り合うなど、本人を支える関係は築かれている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねてきた際のおもてなし等を通して、次回も訪ねやすい雰囲気作りを大切にしている。また手紙を出すための支援等も行っている。	以前所属していた婦人会の集まりへの参加支援や職員送迎での近隣の美容室利用の支援、家族支援での馴染みの場所に出かける等、できる範囲で利用者それぞれの思いを大切にした関係継続の支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や対人関係を観察しながら時には間に入り、和やかな雰囲気が作れるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お便り等を通して交流を続けている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話や言動の中にヒントを見つけ、思いに添った支援ができるように心掛けている。また家族からも情報や意見をいただく様にしている。	入居前の訪問時に入居相談表を用いて、思いや希望を詳しく聴き取るなど、意向の把握に努めている。普段の関わりの中から見えてくる気付きには、日々のミーティングや業務日誌、ケース記録を通して職員間で共有している。また、ゆっくりと本人の話を聞き、触れ合いながら目線を合わせ一人ひとりに応じた生活を支援している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人、家族からの聞き取りや普段の会話の中から把握できるように努めている。	自宅訪問時に本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし、趣味など詳細な聞き取りを行っている。これまでのサービス利用の経過についても、前任のケアマネージャー等からも情報提供を受け、環境の変化にも配慮して、その人らしい暮らしの継続に活かしている。入居後も日々の様子から習慣を把握して、新たに得た情報は記録して共有し介護計画にも反映している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を中心に一人一人に目を向け、小さい気付きの積み重ね情報の共有をし個々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は本人、家族、居室担当者から聞き取りを行い、定期及び必要時に検討会を開催している。	本人、家族、居室担当者から意見や意向を聞き取り、ケアマネージャーが中心となって介護計画を作成している。モニタリングは居室担当の職員が月に一回実施し、現状や新たな課題等を把握している。職員は日々の関わりの中からも状態を把握して、現状に即した介護計画作りに努めている。状態に変化があった時には随時見直しを行なっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を個別に作成している。特変時等には別に記録し申し送りも行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部サービスの導入としてニチイの家事代行サービス通院介助等を活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や自治会等を通して近隣住民の方からは入居者の様子を承知いただいており、地域の夏祭り見物に際しては手を引いていただいたり椅子を用意いただいたり等、配慮いただいた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には医療連携表を用いてホームでの様子をかかりつけ医に伝達し、適切な指示を仰ぐ等連携を図っている。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診は基本的には家族対応である。家族の状況によっては職員が付き添って受診することもある。受診時には医療連携表を用いて情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。看護師による週一回の健康管理や薬剤師からも薬の管理やアドバイス等もあり、医療の連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪問して日頃の様子や状態を把握しやすいように専用の用紙を使いお互いに情報を共有している。また協力医とのカンファレンスにも参加いただき医師との連携もお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供やソーシャルワーカー等に対し情報交換や相談の機会を設けてもらう様にしている。入院中はできる限り面会に訪れる事で安心していただけるように配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前及び必要時に事業所でできる事の説明を行っている。心身の状況や様子の変化等については家族と情報を共有しかかりつけ医との連携がとれる様に努めている。協力医とは定期的にカンファレンスを行い状態の変化等について情報の共有化を図っている。	入居時に「重度化した場合における対応指針」を説明し、事業所として出来ること、出来ないことを伝えて方針を共有している。利用者の状態の変化や日々の様子の共有は、家族や主治医、看護師と連携を図り慎重に対応している。適切な医療や療養が行える病院や施設などの推進支援も行っている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習を年に1度全職員が受講する事になっている。	急変時や事故発生時のフローチャートが整備され、伝達通報も全職員には周知している。AEDの講習会は年に一度、全職員が受講しており、初期対応は実践できるよう身に付けている。	今後は看護師から急変時の対応や初期対応などの資料を提供してもらい、職場懇談会の場でスキルアップ講習等を定期的に行い、より実践力を身に付けられることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施している。	事業所内で年2回、夜間を想定とした避難訓練を消防署立ち会いの下、実施している。マニュアルの作成、消火器の使い方、避難場所の確認、避難方法などの連携体制も構築され、全職員に周知されている。地震、水害等の災害時の訓練は定期的にビデオなどで勉強会を開催しており、非常食や備品の整備も整っている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を通して皆で考えた指針をスタッフルームの見える箇所に掲示している。	利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応、距離感も大事にした心温まる対応に努めている。接遇やプライバシー保護の研修会にも参加している。朝のﾐｰﾃﾝｸﾞ時に振り返りを行い再確認している。不適切な対応時には注意し合ったりして、全職員が利用者に対して尊重した対応が出来るように心掛けている。日々の記録や利用者情報の管理も責任ある取り扱いを行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選ぶ時等、様々な場面で職員の方からも働きかけながら自己決定ができるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「職員のペースではなく入居者様のペースで」という目標を掲げ実践しようと心がけているが、一日の流れの中では対応しきれない場面もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の着衣や外出の際のみだしなみ等、整えられる様に支援している。またお化粧等についてもその人らしくいられる様、支援、配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切る、炒める、和える、盛り付け、配膳等々お願いする事が多いが、入居者様から「手伝おうか」と声を掛けていただく事あり。食事の準備等には複数の入居者様から関わっていただいている。	食事の準備や片付け等は、利用者と職員が一緒に行っている、利用者個々の能力に応じて支援している。利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみながら食事が出来る雰囲気を作り、一人ひとりの状態を確認している。また、菜園で採れた季節の野菜を調理して旬を楽しんだり、献立には、法人の管理栄養士からも確認してもらい、全量摂取できる食事形態にも配慮されるなど、栄養管理への対応がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事量のチェックや水分摂取量のチェックは一日を通して行っている。これを基に個々に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態を見極め毎食後全員に歯磨きの支援を行っている（声掛け、促し、見守り、一部介助、全介助）。また、毎晩、義歯洗浄剤を使用する場合の支援も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗が少なくなる様、本人の動作や仕草で気付く事や時間を見て声掛けを行う等、支援をしている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援に努めている。さりげない声かけや時間誘導には、細やかな支援と羞恥心にも配慮して、一人ひとりの能力や習慣を理解して適切な支援が出来るよう全職員が統一した援助方法を修得している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量のチェックは必ず行い、薬剤ばかりに頼る事の無いよう個々に応じた取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面や職員配置の問題もあり時間帯の制限はあるが、、できる限り個々の希望やタイミングに合わせて入浴は行っている。	時間帯の制限はあるが週2回～3回の個別対応の入浴が出来るように支援している。希望があれば柔軟に対応している。浴室内は明るく、補助具も整えており安全に入浴できるようになっている。菖蒲湯、ゆず湯など季節の変わり湯を楽しむ取り組みも行っている。入浴中の会話からも利用者の本音を引き出すこともあり、職員間で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に過ごしていただいている。レクリエーション等も強制する事なく個々の意思を尊重している。但し、夜間の睡眠を気持ちよくしていただく為に昼間の活動への参加促しは行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居室担当者は薬剤情報の把握に努め、変化等があった際は全職員に発信し情報の共有を図っている。また、カンファレンスや医療連携表等でかかりつけ医と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や日々の様子を観察し、会話等の中からヒントを見つけ楽しみや気分転換ができる様、個々に合わせた働きかけを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や個々の気分に応じて外出の支援ができるように努めている。散歩や買い物等その都度気分転換を図っている。また希望に添えるよう家族に相談したり行事として立案するなど協力しながら支援している。	一人ひとりの希望に合わせた外出支援は対応可能である。季節の行事や地域の祭り、ドライブ等、年間行事計画も作成され外出を楽しんでいる。家族からの協力もあり、外食や外出で楽しい時間を過ごせている。思い出作りの写真を撮って、楽しく元気で過ごしている様子をお便りに掲載したり、月1回の情報提供時に郵送して家族にも見ていただいている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いを預かっており必要な日用品、衣類等は、外出時に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り扱いの難しい方が多い為、取り次ぐ事や電話をかける為の支援はその都度職員が行っている。中には携帯電話を持っている方もいる。また、手紙の投函や必要物品の準備等の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節の花々を飾ったり季節感のある飾りをホール内に施すようにしている。装飾については派手すぎない柔らかい雰囲気の物を飾るよう心掛けている。日中は日当たりが良く明るい空間となっている。	共用空間は明るく、温かみのある造りとなっている。リビングには厨房があり、利用者と共に調理したり、匂いや音を感じたりと心地良い生活感が窺える。玄関やリビングには季節感のある飾り付けがなされ、色合いや大きさも工夫され柔らかい雰囲気を醸し出している。共用スペースにはソファーを置き、それぞれ自分のペースで過ごせるようになっている。室温は適切に調整され、心地良く過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースにはテーブル、イスの他ソファーが置いてあり思い思いの場所で過ごせる様に配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具等、自由にお持ちいただいている。	本人、家族の希望する馴染みの家具や写真、装飾品等の持ち込みは自由である。本人、家族、居室担当者が協力して、その人らしい居室作りを行ない、居心地の良い環境となっている。利用者からも掃除や整理整頓など、出来る能力を発揮して貰っている。また、状態に応じて部屋の環境作りも見直し、生活空間を広くして動きやすい工夫を提案している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	料理作り、配膳、掃除、洗濯たたみ等、個々の「できること」「わかること」を活かし自立した生活が送れるように工夫している。		